

未来ファンドおうみ通信

NO. 6

2016年12月1日発行
淡海ネットワークセンター

<http://www.ohmi-net.com/>

中間報告・相談会を開催しました

10月15日（土）13:00からピアザ淡海（県民交流センター：207会議室）において、「未来ファンドおうみ 2016年度助成事業の中間発表・相談会」を開催しました。



この相談会・報告会は、今年度採択された助成事業の進捗状況を聞くと共に、組織課題や事業課題についてアドバイスをいただく場としています。8つの助成基金を活用しながら、地域の課題解決に取り組んでいる21事業の発表がありました。

助成先団体が事業について、①当初計画の概要、②中間報告までの実績と達成度、③課題と今後の改善方策について報告しました。当日の報告と、事前に出された「相談してみたいこと、聞いてみたいことシート」にもとづき、運営委員とアドバイザーがアドバイスをします。基金の寄付者の方もご参加いただき感想を聞かせていただきました。



各団体の展示は、今後の活動の参考になると好評でした。

2016 助成先団体の活動

おうみNPO活動基金助成

NPO 法人あめんど

本年度は、おうみNPO活動基金助成と、げんさん食育NPO活動基金で助成を受けています。

今回は、おうみNPO活動基金助成事業の『子どもの元気でつなごう！世代・社会・未来』について紹介します。この事業は2本柱で成り立っています。

1つめの柱が、「地域子どもたちへの体験活動・学習活動」です。5月のスポーツ会、6月の野外活動、7月の宿題会、10月の秋祭り、11月の野外バーベキュー、12月の昔遊び体験、1月のお餅つき体験、2月の片付け講座が計画されています。

2つめの柱は、「子どもたち中心の訪問団をつくり、老人ホームなどを訪問し子どもの元気で高齢者の方に喜んでいただく活動」です。訪問団は春から準備をします。舞台用の道具をつくり、練習を重ねます。訪問は2ヶ所です。9月19日の敬老の日には、カーサ月の輪を訪問しました。このときの参加者は、小学生15人、高校生2人、大学生3人、そしてスタッフでした。同月の22日秋分の日には、東新緑苑シルバー会を訪問しました。小学生16人、高校生1人、大学生2人そしてスタッフが参加しました。訪問団の演目は、劇「桃太郎」、昔遊びのけん玉と手遊び、歌とダンス、大学生のコーラスなどです。



舞台上で演技をした子、得意なダンスを披露した子、黒子としてサポートに徹した子、みんな「これならできる！」という形で参加し、やり遂げることで、そして見てくださ

った方々に喜んでもらったことで、自信をつけて成長していているとのこと。お年寄りのみなさんの笑顔も素敵でした。

笑顔あふれるコープしが基金助成

朝日1丁目

ご近所見守りたい

採択事業名は、団体名と同じく『朝日1丁目ご近所見守りたい』です。

この地域は、約40年前に新興住宅地として開発され、現在、65歳以上の高齢者が占める割合は約48%です。地域に住み続けたいと願う住民がもつ不安を、ご近所の見守り活動を通じて改善していきたいと活動しています。



月2回の定例会議、高齢者宅の戸別訪問、「命のバトン」設置の推進活動、高齢者や助けが必要な人や独居老人などの住宅と空き家がわかるマップの作成、「見守りたい通信」の発行と配布をおこなっています。さらに、関係機関や関係団体と連携をとったり、勉強会、集い、サロンなども開催し、人間関係が深まるような工夫もされています。

また、一人暮らしの高齢者宅を訪問したときは、メンバーの携帯電話番号の書いた大きな文字のカードを渡しています。

人のお世話にならないようにしたいと思われる高齢者の方もおられますが、日頃から人間関係を築いていくことで、困ったときに助けてと声があげられるような地域をめざして活動しています。

2016 助成先団体の活動

ナカザワ NEO フレンドシップ基金助成

子ども学習支援クラブ Girassol/Girasol

(ジラソール/ヒラソール)

「ひまわり」のことを、ポルトガル語では Girassol、スペイン語では Girasol といいます。採択事業名は、『外国にルーツをもつ子どもへの学習支援と居場所づくり』です。

学習支援クラブ会員とボランティアが、外国にルーツをもつ子どもたちを対象として、日本語と教科学習の支援をおこなっています。子どもの宿題、テスト勉強の補助、苦手な分野の復習、日本語の初期段階の学習などをおよそ月3回、土曜の午後を実施しています。

その他にも、6月にイモ植え、8月には甲賀市国際交流協会と一緒に親子井づくりなど、楽しいイベントもおこなっています。冬には保護者向け学習会も予定されています。



子どもたちは、毎回10名ほど参加していますが、支援をするボランティアが不足していることが悩みです。そこで、ボランティア向けに学習の取組を紹介したり、学習に興味を持つ方に見学していただく機会をつくっていききたいとのことです。

また、保護者との情報の共有も大切ですから、年度末に懇話会をもつ予定です。

びわこ市民活動応援基金助成

八幡山の景観を良くする会

採択事業名は、『市民や子供達が親しめる安全で明るい里山環境、八幡山の整備活動』です。

5月～10月は、コナラ林と遊歩道の除草・整備活動をおこなっています。11月～4月にかけては竹林の整備活動です。明るく安全な八幡山にするために、毎月3回定例作業をしています。

こうして整備された八幡山で、タケノコ堀大会、親子縦走ハイキング会、卒業記念植樹などをおこなっています。



今年の親子タケノコ掘り大会は、4月29日に実施されました。57家族、参加者は215人、応援スタッフは33人の参加がありました。今年はタケノコが不作の年のうえ、イノシシの被害もありましたが、1家族にタケノコを1本はもらってもらうことができました。

メンバーの高齢化によって、整備活動の参加者が少なくなっていることから、昨年から一般参加者（現役世代）の参加を呼びかけています。今年の11月からは八景会の兄弟グループとして『一般社団法人秀次家臣団屋敷跡竹林を守る会』（通称八竹会）が発足し、両団体が連携をとりながら活動しています。

2016 助成先団体の活動

おうみ NPO 活動基金助成

認定 NPO 法人アンビシャス

採択事業名は、『steed ブランド価値向上支援事業』です。

同法人は、2007年に開設した聴覚障がい者支援拠点「びわこみみの里」（守山市）の開設備備段階から現在に至るまで支援活動をおこなっています。内容は、週2回の技術支援とボランティア支援です。その支援事業のひとつに steed 事業（正式名称：サンキューファインホース夢プロジェクト）があります。

日本中央競馬会の競走馬が調教のときに付けるゼッケンは、毎年10月にすべて新しいものに取り替えられます。ゼッケンはペットボトルを再生した布から出来ていて非常に丈夫です。このゼッケンを使って何か作れないかという試行錯誤の中から生まれたのが「steed ゼッケンバック」です。



近くに調教トレーニングセンターがある滋賀県と茨城県の障がい者施設が洗濯を担当します。それを、びわこみみの里の通所者などからなる縫製班がバックに仕上げて

いきます。緑や黄色などの鮮やかな色のゼッケンに縫いつけられた厩舎番号と馬番番号をそのまま活かした大胆なデザインで、世界に一つだけのオリジナルバッグとなります。

アンビシャスはこの事業を通じて、障がい者が習得でき、かつ steed ブランド価値を高める縫製技能、プロジェクトマネジメント技能の向上を専門家の協力を得ながら支援しています。また、HP 及び SNS 等の設計と同時進行で、クラウドファンディングを利用し、話題性を活かした発進力を高める予定をしています。

2017年度助成事業の 募集が始まりました！

応募受付期間

2016年11月20日～2017年1月15日

(1月15日(日)17時 必着)

※期間外の応募は受け付けておりませんのでご注意ください。

詳細は、淡海ネットワークセンターのホームページをご覧ください。

<http://www.ohmi-net.com/article/15518026.html>

お詫び

2016年10月1日発行の「未来ファンDおうみ通信 NO. 5」でご紹介しました「彦根にほんご教師会」の名称が、「彦根にほんご日本語教師会」となっていました。お詫び申し上げます。

お問い合わせ先

淡海ネットワークセンター（公益財団法人 淡海文化振興財団）

〒520-0801 大津市におの浜 1-1-20（ピアザ淡海2F）

TEL：077-524-8440、FAX：077-524-8442、e-mail:office@ohmi-net.com